

## 第6章 米国の市場・消費動向

---

### ◎ 本章のポイント

本章では、統計資料をもとに、米国の農林水産品の輸入動向と日本食品のメインターゲットである在留邦人数の推移を分析した。今後、輸出可能性の検討に参考となればと考えている。

#### I. 貿易統計・在留邦人数

まず、米国における日本からの輸入動向を分析している。そもそも第一次産品の輸入に制限が多いなか、2005年にははたて貝が大きく増えるという現象が現れた。

日本以外の世界各国からの農林水産品輸入動向では、穀物、牛肉、トマト、ぶどうが多く輸入され、日本からは輸出ができない品目が多く輸入されており、日本製品への門戸が開かれればチャンスもあろう。

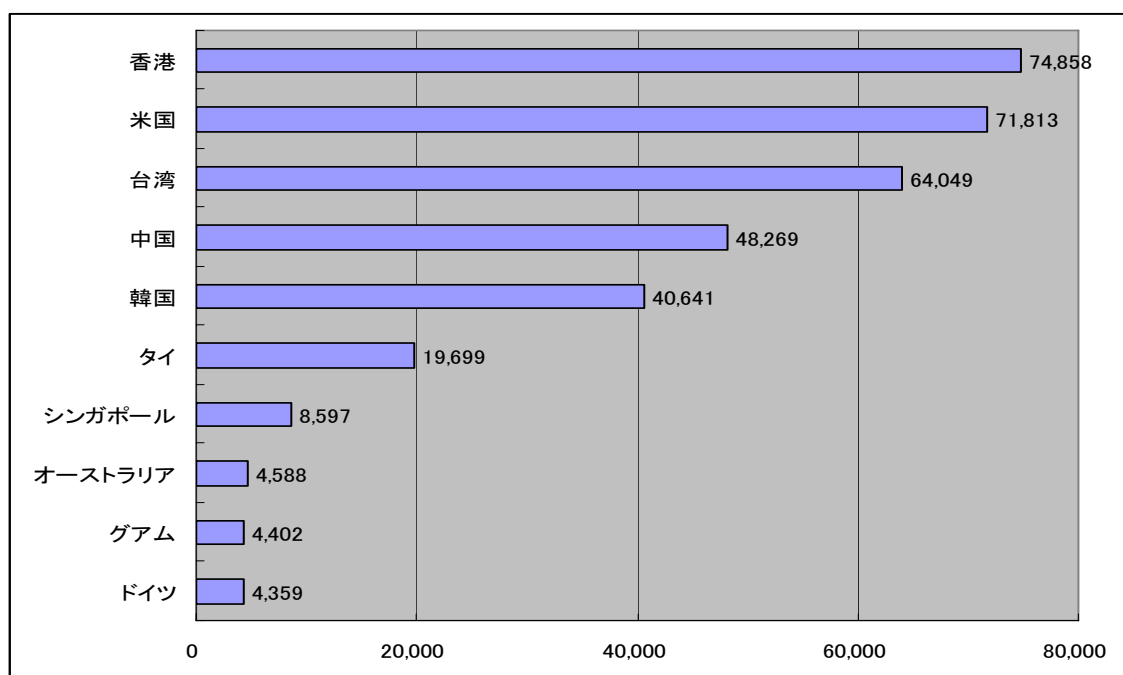
在留邦人は、西海岸と東海岸に多い。西海岸の在留邦人は増加傾向にあるが東海岸のそれは縮小傾向にある。今後は、マーケットとしての西海岸の重要性がさらに強くなるものと考えられる。

## I. 貿易統計・在留邦人数

### 1. 日本産品の輸出動向

米国は、わが国にとって最大の農水産物食品の輸出国となってきたが、近年、アジア諸国への輸出がきわめて伸びており、その地位が脅かされるようになった。2005年には、ついに、その差はわずかではあるものの、香港に首位の座を明け渡した（【図6-1】）。また、3位の台湾との差も少なくなっている。米国を除いたベスト5は日本の近隣国である。農産品・食品輸出の大きな阻害要因である輸送所要時間を考えると、輸送時間が長い米国が2位になっている点は注目に値しよう。

【図6-1】 2005年の日本の農林水産品輸出先ベスト10（単位：百万円）

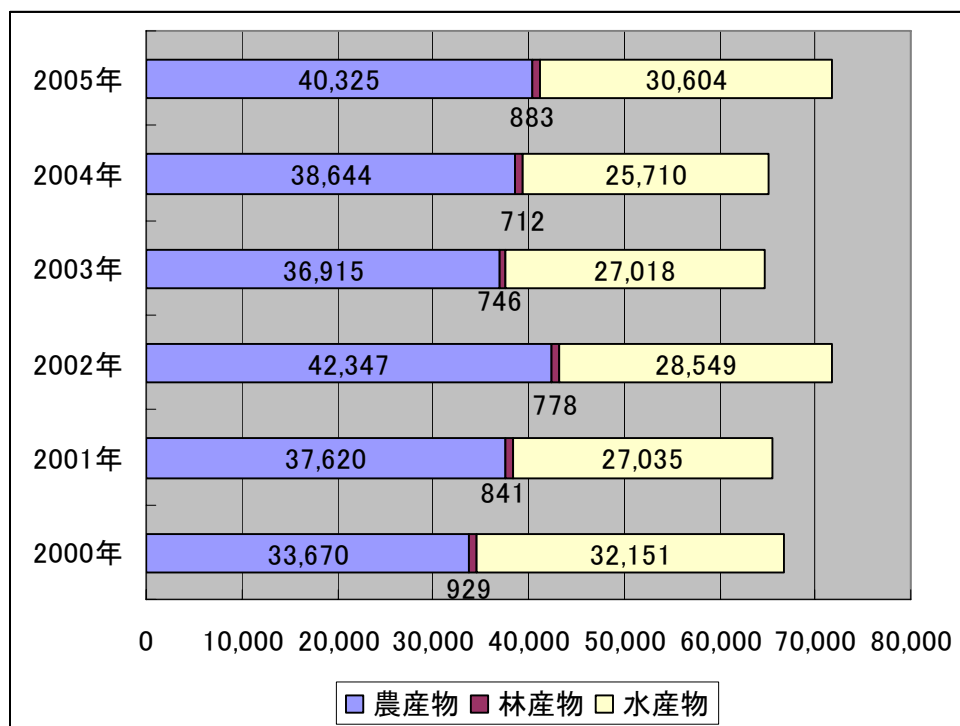


出所：農林水産省ホームページ (<http://www.toukei.maff.go.jp/world/index.files/wagakuni2koku.htm>)

米国への食品輸出は肉類が輸出できず、水産物も認可工場のものでなければ輸出できないため、品目的に限定される。

2000年以降の米国に対する日本の輸出推移（【図6-2】）をみると、2002年に一度ピークを打ってから、2003年、2004年は2002年を超えることができなかった。「農産物」の場合、2002年がピークであり、その値は2005年にいたるまで破られていない。一方、「水産物」は2000年の実績が過去最高であり、その値は2005年にいたるまで破られていない。

【図6-2】日本からの輸出推移（単位：百万円）



出所：農林水産省ホームページ

(<http://www.toukei.maff.go.jp/world/index.files/wagakuni2koku.htm>)

具体的な品目をみると、真珠がもっとも多いが、2005年はほたて貝が前年比4倍と大きく数量を伸ばしている。そのほかでは、アルコール飲料、練り製品、ごま油が多く、以上の5品目で2005年では29%、2004年でも26%を占める（P.93【表6-1】）。

【表6-1】日本からの輸出品目（単位：千円）

	2005年 輸出額	全輸出に 占める割合	2004年 輸出額	全輸出に 占める割合
真珠（天然・養殖）	7,503,643	10%	8,390,267	13%
ほたて貝（生・蔵・凍・塩・乾）	6,265,839	9%	1,339,858	2%
アルコール飲料	3,449,088	5%	3,000,184	5%
練り製品（魚肉ソーセージ等）	2,070,977	3%	1,804,424	3%
ごま油	1,780,669	2%	1,681,855	3%
播種用の種等	1,533,839	2%	1,605,398	2%
即席麺	1,269,066	2%	960,278	1%
清涼飲料水	1,196,699	2%	1,079,052	2%
米菓（あられ・せんべい）	889,652	1%	879,006	1%
貝柱調製品	819,828	1%	534,021	1%
キャンデー類	800,302	1%	740,488	1%
メントール	708,234	1%	471,883	1%
緑茶	664,491	1%	457,807	1%
たばこ	625,646	1%	1,194,271	2%
かに（冷凍）	622,877	1%	602,141	1%
味噌	595,263	1%	592,395	1%
醤油	581,381	1%	556,881	1%
かつお・まぐろ類（生・蔵・凍）	474,866	1%	384,154	1%
配合調製飼料	450,002	1%	638,698	1%
いか（生・蔵・凍）	305,555	0%	317,516	0%

出所：農林水産省ホームページ（<http://www.toukei.maff.go.jp/world/index.files/wagakuni2koku.htm>）

## 2. 世界からの輸入

日本からの一次産品の輸出が少ないからといって、米国が世界から農水産品を輸入していないわけではない。米国がどの品目を輸入しているかが判明しないと、米国の食品ニーズが判明できない。そこで、ここでは米国の全世界（日本を含む）からの輸入状況を調べる。

輸入統計をみると（P.92 **【表6-2】**）、

- ・量的には穀物が圧倒的に多く、続いて牛肉、砂糖が多く、トマトも多く輸入されている。
- ・金額的には牛肉、えびが多く、トマト、穀物、ぶどうといったものが多い。

日本から牛肉の輸出はほぼ不可能であり、トマト、ぶどうも輸出できないものの、米国ではこれらの品目が多く輸入されており、門戸が開かれれば輸出可能性のある品目と想定できる。

【表6-2】米国の農林水産物輸入統計（単位：輸入量：MT、輸入額：千ドル）

品目名	2002年		2003年		2004年	
	輸入量	輸入額	輸入量	輸入額	輸入量	輸入額
さけ・ます類	91,246	367,179	81,928	379,377	77,544	359,372
たら類	23,887	51,512	26,519	50,314	22,655	47,813
にしん・いわし類	6,607	4,514	7,860	6,397	8,874	6,369
かつお・まぐろ類	53,144	269,482	53,613	349,324	46,199	341,286
えび類	332,885	2,655,585	399,617	3,098,500	396,961	2,969,289
かに類	72,684	633,091	77,386	731,706	80,464	738,807
いか・たこ類	63,883	147,014	74,830	208,660	70,545	207,006
牛肉	987,603	2,510,575	890,957	2,461,100	1,105,104	3,440,759
トマト	860,097	795,242	939,257	1,116,618	931,972	1,126,683
豚肉	367,258	718,241	400,957	830,280	376,340	995,468
穀物	5,014,779	922,897	4,108,951	933,577	4,310,661	969,752
ぶどう	444,786	680,273	482,486	834,302	471,253	878,617
砂糖（粗糖換算）	1,418,803	559,722	1,528,766	619,761	1,530,193	607,640
米（精米換算）	409,856	162,339	431,302	242,313	480,754	284,850
小麦及び小麦粉	2,216,623	334,619	1,348,116	220,240	1,420,779	247,699
牛乳及びクリーム	102,471	179,954	110,381	202,904	105,208	242,504
りんご	170,354	108,434	186,763	165,218	207,378	215,879
たまねぎ	270,083	147,374	293,175	183,061	312,632	213,007
オレンジ	120,741	135,855	153,040	254,039	142,964	210,577
なたね	199,837	61,668	161,981	54,254	503,378	151,844
とうもろこし	300,316	137,153	337,316	169,604	325,243	140,298
ばれいしょ	400,578	104,033	395,665	99,818	342,483	84,376
大麦	476,440	66,117	308,067	52,539	453,532	73,920
大豆	109,517	27,539	181,673	50,713	130,032	61,442
鶏肉	12,420	25,089	11,784	29,634	16,380	53,044
綿花	9,567	19,949	13,897	26,967	6,336	16,717
鶏卵（殻付き）	3,907	14,506	4,394	13,039	3,480	14,350

出所：農林水産省ホームページ（<http://www.toukei.maff.go.jp/world/index.files/wagakuni2koku.htm>）

### 3. 在留邦人

在留邦人は日本の農林水産品・食品のもっとも確実な購買者である。地域別でみると、東海岸と西海岸に在留邦人の約30%ずつが集中している（【表6-3】）。

東海岸の中心はニューヨークであり、在留邦人がもっとも多い。しかし、ニューヨークの日系企業は本社や管理機能が多く、駐在員も単身赴任の年齢の高い人が多く、在留邦人数は頭打ち状態にある。

一方、西海岸では、製造業とIT等の新規産業、そしてサービス産業の進出と拡大が盛んであり、在留邦人数が伸びている。また、比較的年齢の若い家族が赴任している傾向がある。そのため、東海岸は外食傾向が強く、西海岸では家族との食事が多いといった特徴がある。

【表6-3】地域別在留邦人数（2005年）（単位：人）

	都市	人口	割合
西海岸	サンフランシスコ	36,293	10%
	シアトル	11,603	3%
	ポートランド	6,108	2%
	ロスアンゼルス	68,346	19%
東海岸	ニューヨーク	94,314	27%
	ボストン	15,326	4%
西海岸	シカゴ	25,939	7%
	デトロイト	17,697	5%
南部	ニューオリンズ	8,366	2%
	ヒューストン	8,555	2%

出所：外務省領事局政策課「平成17年海外在留邦人数調査」